

生活を安定せしむるにも、下層社會の収入を少なくとも最低生活費まで高めしめ、同時に最低生活費に對して大に収入の餘裕あるものは、成るべく生活費の浪費を戒めて、其節約したる資金は之を生産事業に投資するか、若くは意義ある子孫の教育費に備ふるか、或は社會的事業に寄附する等、資金の有益なる運用に供せられんことを期したいものである。世間或は浪費を以て消費の最上策となし、資金集散の奥の手となし、景氣恢復のバロメーターでもあるかの如く思惟する者尠なからざるが、是れ不生産的消費が不生産的事業の投資である事を知らざるより生ぜざる誤解の爲であつて、吾人の同意し難き所である。そこで此の意味に於ても吾人は前記の場合に於て月収百圓の百圓戸を増加するよりも、寧ろ月収五十圓の五百萬戸を得んことを欲し、又た月収百圓の百圓戸中より五十萬戸を減じても寧ろ月収五十圓の二百五十萬戸を得んと欲し、更に之を按排すれば月収百圓の百圓戸中より各二十圓位を減じても月収四十五圓の四百萬戸を得んことを欲するのである。そして凡そ資金のみに限らず、人間界に於ける總ての偏重や偏在や不公平不平等が、合理的に斯の如く段々と平均される様になるならば、夫れは慥かに理想的でもあらうが、國と國の間にも天然資源の差違や人口の多少などが有るが如く、人と人との間に於ても知識才能資力環境等の差違は、到底悉く之

を一定則の下に合理化することの不可能なるやを想はしむる、是れ亦た是非も無い次第ではなからう歟。

一、今の人能く金・金と謂ふて、金より以上に尊重すべきものは無いかの如く無闇に獲金と散金とに煩悶すること、恰かも彼の飲酒家の酒・酒と謂ふが如く、又た好色家の女・女と謂ふが如しであつて、何れも其經濟の破綻者であり、道德の破壊者であり禁慾主義の反逆者であることに氣附かないのである。即ち金・金と謂ふて煩悶するのは、其中自から分度を超えた無限の慾求、つまり贅澤や快樂の出来る丈けを盡さんとする目的に出づるものであつて、或は分度以上の虚勢を張りたいとか、虚榮を得たいと謂ふ慾望も生ずるのである。之は個人としても國家としても洵に不健全な思想であつて此思想の瀰漫は吾人の健全なるべき精神身體を反對に腐敗し毀損せしむるものである。又た吾人の家庭生活を紊亂し不圓滿ならしむるものである。又た吾人の文化的生活を遊戯的に虚飾的に不健全的に推進せしむるものである。そして時代の流行病たる千種萬様の惡徳も鬪争も犯罪も、皆此分度以上の慾求の満足に基因するゝ事を想ふとき、吾人は一層切實に禁慾主義の科學的徹底必要を感ずるものである。即ち文化の長所を探りて弊害を除き、實用的文化を重んじて浮華的文化を去る

のであつて、禁慾を経とし經濟を緯として、一切合理的の立派なる文化個人と文化社會とを、完全無缺なる内容の下に織出さんと欲するものである。そして盜賊も無ければ強慾人も無く、墮風も無ければ無駄も淫風も無く、抗爭も無ければ偏政も無き、之を一國の發達に例すれば譬へば少くも瑞典・ノルウェー・デンマークの如きよりも、以上數等の優等文化國たらしめんことを慫慂せんとするものである。

一、斯く謂ふと世のモガを以て自任する者、或は禁慾主義を以て時代逆行の妄語であるとするならん。吾人と雖も悉く人間としての慾を有つて居る以上、良薬が必ず口に苦いのは無理からぬ事を知つて居る。又た衣食住足りて禮節を知ると謂ふ様な、漠然たる標語にのみ眩惑され、徒らに生活上なる甘い蜜の様な文字などに魅せられて、殆んど無省慮的に、殆んど無抵抗的に、殆んど盲目的に、飢者の食を爭ふが如く浮華の夢、虛榮の陶醉、文化の悪用に分秒も及ばざるやを恐るゝかの如き、墮落世相の容易に合理化され難いのを知つて居る。併し乍ら吾人は之と同時にチームズの水もセーヌの流れも濁より清に追々淘汰さるべく、紐育の風もモスコの暴しも追々轉換されなければならぬ好時機たるを知つて居る。そして今や世界の經濟的大勢が深刻なる整理時代に突進したる以上、最早や浮華や濫費は反て吾人の時代逆行である事知らねばならぬ。假令ひ倫敦の水、

紐育の風でも吾人を不合理化せんとする有害無益のものあらば、斷然として之を國外に排斥しなければならぬ。又た個人主義幸福の反省より共同利害の感和に、快樂萬能の誤謬より、舍身利他の正念に向つて共働しなければならぬのである。故に吾人にして三度の飯と其他衣住等の生活と生命上の安定保障が一般公平に與へられ、且つ何人にも時代に必要な教育さへ一般公平に與へられるならば、吾人は夫れ以上何を苦んで財産と云ふものに對する激烈なる個人闘争を餓虎の如く繰返す必要あらんやとも謂へば謂はれ得るでは無いか。然るに世には相當大なる財産を得たるにも拘らず、尙益々貪婪飽く事なく、死に至る迄遂に個人主義的奢侈逸樂を以て、人生無上の快と爲す變態性慾者尠なからざるは、亦た大に憐まざるべからずや。

一、次に吾人は超スピードと謂はふか、テンポの迅いと謂はうか、世相の變遷は形以上にも形以下にも、頗る目まぐるしいものゝある事、宛かも我等の住する地球其物の廻轉の速かさにも譬へられる様に想はれるのである。例へば最近まで婦人のスカートが短かかつたのに、いつしか長いのが流行る様になつたり、又た一方にては二千五百哩の遠隔地から新聞紙面が三時間にて電送される様になつたり、或はフォードの俱樂部飛行機が御客を集めて空中を悠々し乍ら、機内料理の吟味に舌鼓を

打たしめ、食後骨牌やラヂオを樂しましたり、寢臺に休ませる様な贅澤を行なう様になつたら、日本でも東半球航空輸送會社などが資本金壹億貳千萬圓で發起されて、ツエツペリンよりも更に大きな飛行船で六十八時間の北米日本間の定期航空や其外巴里日本間の定期航空が計畫される様になつたり、報知新聞社の日獨飛行が尖端化されたり、最早や航空界は大臣や好奇家や尖端人の内地試験時代では無くなつたのである。又た無線電信界にしても完全に伯林の送信が我が岩槻無線局に受信されて居るのであつて、國際テレビジョンの實用化も單に時日の問題に過ぎないのである。而して斯の如き空中征服の事業の發達は、世界各國間の交通距離を短縮して文化に寄與するの大なるべきは勿論であるが、吾人の只だ憂ふる所は之に由りて從來の居留民問題や移民問題などの外、新たに國際間に於ける色々の紛争を生ずるに至らん事である。或は各國間の領空問題とか、或は航空事故問題とか、或は制限取締問題とか、或は遂に空中鬭争問題をも惹起するの虞なしとしないであらう。想ふて此に到るとき吾人は歡喜の中自から一抹の陰翳無きを得ないのであつて、之を海に得たる世界の平和を、何時しか空に於て失ふが如き愚を爲さざらんことを望むものである。

一、概つて世界の趨勢を鳥瞰するに、勿論今後少くとも幾十年間世界文化の中心たるべきものは、依

然として歐洲と米國とではあらうが、各國共政治上經濟上現在の地位を失墜せざらん事に、汲々乎として是れ日も及ばざるの感あるのも無理からぬことである。殊に近年歐米諸國の産業合理化とか、國際貿易振興とかに熱心なるは、丁度我國の現状と同巧異曲の感がある。そして各國共之が爲に多數の失業者を生じ、之に苦しむと同時に世界的不景氣風に吹き捲かれて居るのであるが、矢張り強い者は強く、證する所優勝劣敗の數は國と國との間にも已むを得ない事であらう。彼の萬年景氣を誇りたる米國不景氣の襲來は、昨年於ける英國の資金引上げ頃からであるが、一方から言へば米國の變態景氣の長かりし爲に世界的合理化を遅らしめたのであつて、以來各國の財政策や貿易政策は益々警戒と自衛熱とを眞劍に高調するに至り、日本の金解禁亦た之に油を注いだものとも謂へるのである。即ち一言之を評するに、世界は尙暫く經濟戰線に於ける消極的壟斷戰によつて、不景氣風の轉換を待たなければならぬ時機であるのに獨り驚くべきは獨逸の復興の目覺しさであらう。彼れ獨逸はカイゼルなしと雖も其卓越せる國民性を有し、臥薪十年科學の進歩や、産業の合理化や、國運の再興に國民一致の努力を致せるの結果、今や捲土重來の勢を以て、盛んに南支那に於ける日英兩國市場を蠶食しつゝあるのみならず、宛かも米國が胡蘆島の築港計畫によつて、日

本の大連に對抗せんとすると同様の意味に於て、英國の香港に對抗すべく、臺山縣の銅鼓灣に自由港建設の計畫を立て、完成の曉には鐵道の延長、鑛山の開發、大機械工場の設立に邁進し、以て南支那貿易の中心點となすの目的を定めて居る事が視はれるのであるが、何んと畏敬すべき偉大な國民ではあるまいか。惟ふに我が國民性や果して奈何。優越なる或るものが有るには有るのだが、それが果して獨逸國民性の如く、積極的に男性的に、克く彼を凌駕し得べきや否やは聊か疑問とすべきではあるまいか。

一、東洋に於ても中央支那は依然として統一されず、最近又々閻・璋・馮の反蔣聯合軍は勃興し、共產黨軍亦た暴動を逞しふして戰亂を構へ、加ふるに世界の需給が遂に十五片臺まで銀價を慘落せしめたる等、政治上經濟上の深刻なる變動は、同國をして不況と謂はんよりも寧ろ混亂に導き、我が重要な對支貿易も當分悲觀せられるに至つたのである。又た英領印度に於ても本年五月東洋精神の聖者たるガンデー等は投獄されたるも、詩人ナイツ女史指導の下に相變らず不服從抗爭運動が繼續せられつゝあつて、段々辛辣を極めつゝある印度總督の取締りも、未だ民衆の義勇を緩和するに至らずして納税も拒否され、佛領印度も亦た支那土人の納税拒否運動ある等、南方亞細亞も多端で

ある。更に北方亞細亞は奈何と謂ふに間島には不逞なる共產主義鮮人の狂暴計畫を爲したるあり、赤露西比利亞亦た混沌として民生の安定果して幾年の後なるやを期し難く、最近ソヴィエツト政府の經濟政策は、有らゆる手段を弄して農産物其他の製産増加を企圖し、之が爲には幾分右傾して對農緩和策を執るに至りたる模様なれども、一般の食糧難や多數農民の憐れむべき窮狀は容易に救はれず、流石の共產權力者も逐日國民怨嗟の的となりつゝありとの事なるが、元々國民の一致を缺きたる專制掠奪政治の志す所、其目的の失敗又失敗に終らんとする蓋し故なしと謂ふべからずであらう。

一、之を要するに洋の東西を問はず、世界の現相は政治上に於ても、經濟上に於ても、思想上に於ても、事頗る多端にして不安、争ひ頗る複雑にして深刻なりと謂はなければならぬ。そして其基づく所の共通的根本原因としては、一に經濟上の不備・不足・不安・不平等か、若くは餘裕・過剩等より生ずる欲求・壓抑・差別・排擠等の鬭争に歸着せらるゝのである。故に所謂世界的不景氣も、世界的失業洪水も、世界的財政難も、世界的思想難も、結局一言にして之を蔽ふときは、皆な經濟上の不備・不安・不足・不平等及傲奢等より誘起されるのだと謂つても、決して不當の言で無いであ

らう。國と國との關係も、國と國民との關係も、資本と勞務との關係も、集團と人との關係も、個人と個人との關係も皆な左様である。權利とか名譽とか地位とか功勞とか慰藉とか、同情とかの争ひも必竟經濟上の利害を打算せらるゝ事から起るものである。關稅引上論も納稅延滞も値下げ運動も給料削減要求も皆な經濟上に於ける利害衝突の顯はれである。怠業・同盟罷業・誠首・強要等の危険思想も亦た利害背馳の爲である。併し乍ら凡そ國際上にも實際にも商賣上にも勤勞上にも、正當に競争すべき相手のあるものは甚だ結構なものであつて、假りに一國にしても積極又は消極に競争すべき相手國が無くなつたとしたら、其結果は何様であらうか。若し此の如き國あらん歟、それは上下何れかに經濟上の行詰りを意味するのであつて、積極なれば腐敗し、消極なれば自滅の外は無いであらうが故に、吾人は常に國としても、個人としても、集團としても、幾多の競争者あるを歓迎し、そして其經濟戰爭には飽く迄も信義の矛を以て正義の争を爲さんことを勸告すると共に、人口過剩の爲に生ずるが如き人道的移民問題などに對しては、特に人類の平和は共存共榮に在りてふ信條を以て、國際協調を重んずべく戒告するものである。そして之と同時に吾人は成金たることを欲せざるが故に、窮しめせず行詰りもせず、即ち富んでも奢らず窮しても脅かさず、貧者に

は之を與へ富者は之を扶くべく、共存共榮の正道をば只一筋に辿るべきである。吾人をして斯く正道を踏まんか、天下豈に腐敗滅亡の愚を爲すものあらんやであらう。

一、吾人は此の如き精神を以て自から治むると同時に、善隣支那の爲にも大に考慮しなければならぬと思ふ。地理上に於ても、經濟上に於ても、政治上に於ても、相互の爲に利害關係の最も密接に且つ永遠なるべきは、日支の關係でなければならぬ。日本微力なりと雖も何故支那の爲に圖るに、充分ならざるの憾があるのであらうか。内政の干渉は固より不可なり、出兵も無論歡迎されず。徒らに斯の如き態度を執らんよりも、何故彼をして其自治を促進せしむべく、好意的援助の態度に出でぬであらうか。支那内部の平和と統一とを希望することは、世界の何國よりも日本國民の最も痛切に希望する所でなければならぬ。單に同文同人種であるのみならず、宗教上や軍事上に於ても兄弟の關係に在らねばならぬ。吾人は世界各國中最も因縁深く、兄弟關係ある所の隣邦支那の年中行事たる内紛に對して、何故袖手傍觀許りして居らねばならぬかを、寧ろ訝がるべきであるまいか。又た類々たる日貨排斥などの聲や、排日運動などの叫びを聞くに及んで、我輩は何故深甚なる猛省をしないのであらうか。或は我等の不徳の然らしむる所ではあるまいか。經濟上に於ても、現在世界

三分の一の富を集め、世界主要原料の大部分を産出してると謂はるゝものは米國であり、其米國はまた比津賓を足場として、東洋をも其勢力下に席捲せんとしたであらうし、又た無理からぬ野望でもあらうけれども、我等の善隣支那には無限の寶庫が埋藏され、無限の富源沃野が何時でも大江河と共に我等の直前に展開さるべく、待構へて居るのであるから、支那四億の民衆亦た何も遠く太平洋を隔てゝまで、餘り多くを其勢力下にのみ阿諛し期待するの必要も無からんかと想ふのである。去り乍ら米國の弗の威力は可成り壓倒的であるから、或は債權國たる權威により、或は正義人道や人類平和の題目により、將來必ずや急速に其勢力を支那に扶殖すべく、獨逸も亦た科學的威力を支那に新興すべく、英佛又は舊來の極東勢力圏を基礎として益々角逐を怠らざるべく、露國又は不安定なる支那の政情民心の覺察に乗じて、益々赤化運動に努むるに猛進しつゝあるべく、之を概念し之を約言すれば、支那は宛かも世界列強の包圍競争を受けつゝある、未知數國たるやの觀があるが、各國協調と云ふ事は良い事なのである。而して最近に於ける銀塊十五片臺の暴落は、銀貨國たる彼の國民に經濟上甚大なる損害を蒙らしめたるにも拘らず、中央政府の威令は依然として行はれさうにも無く、閻蔣鬪爭内亂等の爲、國民の不安疲弊殆んど完全に救はるゝの期なく、掠奪殺

傷は隨所に行はれ、甚だしきは饑饉の一地方に於て、我子の生血を吸ふものさへありと云ふに至つては、其政治組織の不完全にして、經濟組織の亦た未開なる、我に比して實に驚くべきものゝあるを想はしむるのである。茲に於て吾人は善隣支那國民として、支那の統一的治平の迅く行はれんとを熱望すると同時に、若し支那にして他日其土地を二分され或は三分さるゝが如き形勢の推移あらんか、そは一世界の問題や一東洋の問題では無くして、最も重大なる支那國民自身の問題となるのであつて、我等日本國民の責任としても、到底之を對岸の火災視すべき問題で無く、極力支那國民全體の爲に、正義の力を盡さなければならぬのである。然らば正義の力とは何であるか。夫れは平時にあつては我等各國と協調して政治上に於ける國內各勢力の融和統一を圖ると共に、經濟上には産業資金の投下によりて其無限の有らゆる富源を開發し、支那國民をして其天惠人力の恩澤に均霑せしむる事と、非常時にあつては我等の犠牲的救護によりて、箠食童漿速かに彼等國民を安堵ならしむる事である。そして吾人は支那が一日も早く統一されたる一大富強國民として、世界の列強に重きを爲すに至らんことを期待すると共に、其實現を促進するに就て努力すべきは、我等國民の兄弟國民に對する公明正大なる義務であると信するのである。而して我等と支那との腹藏なき親

善と公正なる提携とは、無論各國に對して何等の猜疑をも挟ましめざるべく努力すべきであるが、凡そ斯くして兩兄弟國の相互安全が確立せられたならば、少くとも兩國國民は、東洋平和の鍵を把握し、施ては世界の平和に貢獻すべき重要な任務に當り得るを信するのである。縱令ひ夫れが世界人類の平和を左右することに於て、歐米強國の如き最後の切札たり得るの光榮を荷ひ得ないとしても兩國の誠意ある自重は、各國をして世界の戰禍を未然に防止せしむるに於て、相當重要な役割を爲すことが出来るであらう。是れ吾人が漫然たる將來の世界策を想ふに躊躇すると同時に、退いて東洋策を建て大に日支親善提携の實を擧げんことを以て、世界の要求なりと思惟する所以である。

大勢を奈何せん

以上婉々として予叢の叙述せる所を通觀するに、世界各國は一齊に歐洲大戰後の經濟上の收支總動定を爲しつゝある様な狀況に在り、藏相は米國がもう底を衝いたからとて世界的に追々恢復の曙光でも見える様な意見であるが、英國を始め各國共失業者の増加しつゝあるのに據て見ても、まだ世界は

容易ならぬ過渡期に直面して居るのであるから、假りに外國が底を入れた所で當分大なる中間景氣なぞを期待せられる様な原因も無いので、我國の如き貧乏世帯にては其水準線の到達にも今後尙少くとも數年を要するであらうと想はれる。殊に我國の財界内容を按ずるに、其固有の精神文明も、徒らに物質文明の浮華なる憧憬と陶醉の爲に腐蝕されて、遂に殆んど全く生氣を失はんとし、物質文明夫れ自身も亦た何時とはなしに米貨中毒、傲者久しからずの自然の數には勝ち得ずして行過ぎたるは及ばざるに如かず、昨日の夢のエデンの園も果敢無く今日は消え失せて、自から招きし猪喰つた酬いは靦面、國も借金、民も借金、猫も杓子も拜金熱に浮かされ、餘病は結局骨絡みの借金症となつたのである。嗚呼恐るべき哉、歡樂世界は惱みの地獄、四百四病の其中に借ほど辛いものは無い、此様な筈では無かつたがと、昨非今是の上氣の祟りを今さら悔むも追付か無い。そして表面は幾許帝國主義でも、勞働主義でも、只だ一樣に引摺られて儘にならぬは金許り、有つても心配無くて心配、お互に没落はしたく無いと云ふ者、無い袖は振られぬと云ふもの、返せと云ふもの、負けろと云ふもの、負かれ無いと云ふもの、何様したら食へるかと云ふもの、食はせろと云ふもの、利子を拂へぬと云ふもの等々の最も烈しく成つて來たのが、現時の不景氣の眞相の叫びであつて、復た今後に於ける幾層の

合理化や、貸借勘定や、生活闘争やに對する禍因を孕んで居るのであるから、國家的にも産業的にも、個々銘々のにも、我等の共同責任でもあり、又た共通の悩みでもある、此火の車の大なり小なり無数の火焔が、一通り整理され鎮靜するにあらざれば、其眞の財界の極樂境は容易の業にあらず前途遠くの事で、先づ夫れ迄は百鍊淘冶を促がすべく、御國の隅々寺々よりも『撓まず耐へよ、仲善く進め、無理言ひ合ふな、物は諦めが肝腎ぞ、何事も因縁づくぞよ』とでも聞ゆる様な、有爲轉變諸行無常の鐘の聲が響き渡るであらう。

けれども蒔いた種なら刈らねばならず、借りた金なら返さにやならず、身に振り掛つた災難なら除けねばならず。さればとて返す所か利子にも追はれ、擔保價格も證券類と不動産とを問はず、總て幾割の値下りを喰つて居るのみならず、賣らうにも處分しようにも買人の無い始末であるから、借方も貸方も御互ひに困る許り、お負けに高い金利の金が少く無いと云ふ譯であるから、其處に一般の不安と金融界の深い悩みがあるので、西を見て東を見ても生産資金の餘裕綽々たるものは先づ百人一人か千人一人かと云ふ様な状態、是が抑も現在不景氣の根本容態であるのだ。其處で此癌なり腫物を根底より取り去つて財界を眞に更正せしめるには、金融業者の犠牲心によりて擔保品限度を以て一旦

從來關係の貸借勘定の打切りを爲し、大負けに負け薩張り綺麗に清算済みにして丁し、然る後改めて相當條件の商工農資金を新に融通する様な事が出来るならば、夫れが一番果斷的合理化となるのではあるけれども、夫れも出来ないから大藏大臣も悩み、産業界の合理化もテキパキ撈取らないのではあるまいか。併し乍ら財界順調の時代に於てさへ借入金金の利子負擔は容易でないのに、況して財界不況の今後に於ける其負擔は、苦痛の程度を思ひ遣られるのであつて、産業界の整理を阻害すべき事の跡なからざるべきを想ふのであるが、我金融業者たる者亦た國家大局の爲に此際奮起され、幸に計畫されつゝある共同調査機關の設立と共に、精々金融上に於ける全國的産業統制策を實現されたいのである。そして此際少くも一年間以上の期限を定めて、從來産業者に貸付ありし貸金利子の特別五割引で斷行されて見たならば何様であらうか。予輩の觀る所に據ると此方法は、産業家の合理化活動に、多大なる刺戟と便宜とを與ふべきのみならず、金融業者の債權額をも損失せしむる事無く、尙夫れが爲合理化にして順調に全國的普及するに至らんか、其曉に於ける金融業者の安堵は蓋し大なるべく、或は三ヶ年目以後利率の復舊も出来得んかとしたならば、其損失たるや何様にも諦めの出来得る程度のものであるまいか。産業家あつての金融業者である以上、金融業者たる者多年の御得意様に

對する此位の公奉仕は當然の務であつて、御得意先の産業家を生かすものは、寧ろ自己債權保全の自衛上必要では無からうか。予輩は又た世間の産業會社が續々減配し或は無配するの不況時に際し、獨り金融業者のみ配當据置を以て信用を維持せんとするのを決して不可なりとは謂はないが、一般の不況時代に於ては特に金融業者自身より率先して、減配以て内容充實を圖るこそ却て機宜に適したる態度ならずやとも思ふのである。

更に繰返して之を繰述せんに我財界は農村は固より一般商工業者・海陸運輸業者・瓦斯電氣供給業者・鑛山業者等の凡ゆる營業者のみならず、中央政府・地方廳・自治體に至るまで、借金又借金の不良經營をしたり、無謀の擴張又擴張をしたりしたが爲に、共喰ひとなつて大體漸次に經營難に陥入りつゝあつた所へ、世界的經濟上の顯著なる悪化作用が起りたる上に、猪突金解禁を行つたものだから、先づ外國に關係多き重要貿易品より悪化し始め、益々困難を招來する様になつたのである。尙今後も交通機關や電氣事業や米價等に迄も一層の不況を循環するに至らんとする形勢が窺はれつゝあるのであつて、我財界の弱みは概要左の情態に於て因果關係を現はされて居るのである。

◎昨年來國際金融の逼迫・米國の株式暴落・貿易の減退・貿易品價の暴落・各國關稅の引上・銀塊の

暴落等引續き惡材料の殺到せる際に拘らず、我政府は緊縮政策を發表し、非募債政策を高調し、緊縮政策を強調し、且つ其實行に蠻勇なりしより、一般に官民間に事業の萎縮と消費の減退とを惹起せしめ、財界を惡化せるの結果たる株式の暴落や不動産の投げ物は、非常に有産階級の打撃となりたる事。

◎政府の國産品愛用獎勵も遽かに大勢を挽回すべくも無く、産業合理化も合理化毎に知識階級其他筋肉の失業者を生ずるの外無く、各種工場に従業者整理と中央地方共土木建築事業の激減とは、殊に多數の失業者を續出し、一日に貧困無職者の數を増加するに至りたれば、是等弱者の思想は段々失意より怨嗟の境に入りつゝあるが如く、速かに適當の救濟を施すにあらすんば、將來恐るべき惡化の憂ひ無きにあらざるべき事。

◎卸商及工業者は殆んど一齊に値下を爲し商品の投資を爲しつゝあるに拘らず、内外商品の賣行き依然として不況にして、廢業でもするにあらざればストックは容易に一掃されざるが如く、小賣商の内殊に中以下最も其不況に困憊す。而かも消費方面に於ては米其他の日用品に値下りの惠に浴せざるもの多きを以て、諸物價の未だ低落し切らざるを憾みつゝある事。

◎殊に中以下の農村人は近年疲弊の著しき所に、本年は生糸・繭の暴落や其他副産品の下落例へば茄子二十個西瓜一個各五錢駄馬一頭三圓等の爲、最も慘澹たる収入減に苦悶しつゝあるもので、或は全國農會長や町村長代表者の運動ともなりて、或は減税や金融などが叫ばれ、殊に甚だしきは納税延滞の申合せをしたり、教員の減給を強要したり、電燈を廢してランプに逆戻りさへする様な農村もあり、無論小作料引下を要求する農民と引上を要求する農家との係争は全國到る所に行はれ、又た無産黨の活躍は地代家賃電氣料等の不拂にまで伸びて居る様な状況にある事。

◎官僚式金融制度の不備や庶民金融機關の缺如するが爲に昭和の今日尙跋扈跳梁を逞しふ所の俗稱アイスクリームの猛威は實に殺人的とでも謂へようが、此殘忍酷惡なる畏に罹つて、薄資商工農者の難苦するものは、果して幾許有るだらうか。産業界に於ける第一の水平運動として救はれなければならぬのは、此種の惡辣金融業者の魔手から氣の毒な同胞達の掛り合を脱せしめなければならぬ事。又た所謂高利貸の金ならずとも、彼等の借金には比較的高利のものが多數なる事。

◎郵便貯金利子も愈々六厘方引下られる事となつたが、今日の如く日本銀行の割引率でさへ五分八厘であつては、其他銀行貸出率が六七分以上擔保品次第八九朱にも當るのは已むを得ない次第かも知れないが、兎に角此頃の様に資金が偏在固定して居つて、金利が一向安くならないで、其上融資の手續きが頗る面倒では、金廻りが悪く生産事業の振興など到底想ひも寄らざる事。

◎官民共此不況を單に世界的不可抗力に歸して、循環的に將來の回復を夢見るもののみ多く、我獨自の立場に於てさへ病ひの深く膏盲に入れるを知らないのである。従つて確固不拔なる將來の對症療法も無く、又た根本的産業の合理化方策も無く、何れも自家目前の窘窮を訴ふるのみにて、官民一致眞の國家的産業統制合理化に邁進しよう云ふ誠意と努力に缺乏の憾ある事。

◎國際貸借改善も容易に徹底されさうに無く、外國向必要品にして輸出不振となれるもの多く、又た日本の不必要品にして輸入杜絶せざるものある等、關稅上に於ても改善を要するもの尠なからざる事。又た各國共通とは云へ日本の輸出入總額の昨年度より著しく減少せる内に、例へば生糸貳拾萬梱の滞貨を日本に有し、棉花百萬梱の滞貨を米國に有するが如く、各重要品の非常な生産過剩を世界的物資の需給に現示し居るのは、容易に樂觀すべからざる刻下の深憂である事。

◎從來の如き萎縮政策の續く限り最大消費者たる政府方面の購買力は租稅收入の減少著しきと共に益々縮小せられ、事業は繰延べられ勝ちであつて。都鄙共貧困者の増加と民間生産事業の不振とに

より、益々恐るべき人心の荒廢と思想の惡化とを免かれざるべき事。

◎以上の状態を通観するに、人間社會の約束として國家も個人も、盛者必衰・有爲轉變の因果律と併行して、塵界萬事は、善因善果・惡因惡果の應報律の隱顯出沒であつて、吾人の一舉一動悉く此の儼然として宇宙の間に透徹する所の恐るべき因果關係に支配さるゝものたる事を知らなければならぬ。そして最後の我等の運命は常に神の裁判に服従するの外に途無き事。

大體斯の如き容體なのであるが、之に對し予の先輩藤原銀次郎氏はメスを下して曰く「最近に於る問題たる財界不況の深刻なる原因は、消極一點張なる政府の政治的退嬰政策に由るものであつて、之を打開するには先づ第一に政策轉換を行らなければ駄目である。そして第二に國內産業の振興を圖らなければならぬが、輸入關稅例へば鉄鐵・肥料・バルブ等の如きに對する海關稅の引上を斷行しなければならぬ。第三に綜合課稅を源泉課稅に改正して、生産事業に對する株式投資を有利ならしめねばならぬ。是等の事から改善されなければ好景氣來の希望を達せんなど到底思ひも寄らぬ事であらう」と。洵に至當の御説ではあるが、予輩は只だ右の方法を以てしても餘り多くの實質的好景氣を直には期待し得ざるべきを遺憾とするのであつて、充分を言へば我財界が假りに御殿場口の富士の下り坂に

あるとしたならば、今や三合目を下りつゝあるものも有れば、まだ六合目なり八合目邊りを逡巡しつゝあるものも有つて、各事業交替に順番に一波一瀾の不景氣を重ねるに至るは勿論、結局何れの事業も最早やチリ／＼と落附く處まで皆下つて、終には電氣や瓦斯や水道や地代などの様な獨占的のものまでも、相當の値下を餘儀なくされる時節にならなければ、不景氣の眞のドン底は掴めないものと思ふ様の次第であるから、予輩個人の希望としては此際餘り神經過敏的に焦らずに、左の方針を基調として確かりと足止りを定める事を怠らず、足止りさへ出來て各事業が安定すれば、其以上は國民悉く協力一致して向上の一途に向ひ努力を怠らざるより他に致方も無いのである。努力一つにて一陽來福も、暗中飛躍も、捲土重來の時機も自から循環しないとは限らないのであるが、將來假令再び如何様な千載一遇の好景氣來あらんとも、我が賢明なる官民たるもの餘り浮かれ過ぎて、再三世界の尻馬乘りの愚を繰返さざらん事だけは呉々も禱つて置きたい。而して予輩の今後に處し希望する所の方針を擧げんに大體の對策は次の通りである。

◎個人も家庭も集團も政府も、總て經營上の内容に百折不撓の徹底的合理化を爲しつゝ、刻々生ずる收入の減少と資産の値下りに對抗すると同時に、今後一層能率の増進に忠なるべき事。殊に政府は此

際中央及地方共根本的行政整理や軍政整理や官業整理を斷行して範を國民に示すべき事。
 ◎合理化により餘裕を生ぜざる資金は、自他の生産資金に充て得べき様、蓄積し又は放資の財と爲す事。政府は適當なる減税を第一に實行すべき事。

◎見るに忍びざる程の苦しみに在る農村又は中小商工業者の負債に對しては、中央金庫其他の關係者一同にて先づ利子半減を以て極力整理に當らしむると同時に、其最も慘苦の甚だしきものには自治體の手を経て救濟的低利なる新規の融資をも思ひ切り供給せしめ無ければならぬ事。又た出來得る限り舊來の高歩なる借金より低利なるものに借換の方法を執らしむる事。

◎借金亡國借金亡家借金亡人、借金病の恐るべき事窟よりも甚だしきものたる以上、吾人は今後の嚴重なる捻じりして、官民共に生産的にあらざる負債、即ち生活用・喰込み用の負擔を絶対に起さざらしむる事とし、又た事業に適切なる合理化豫算を確認するにあらざれば、何人も資金の需用に應ぜざる國民間の内規となす事。

◎生産資金の起債と雖も吾人は外國よりするのを成るべく制止したい。そして奈何なる巨額も之を内地に仰ぐ事としたい。併し借金で無く起債で無く、全く貿易出超の差金は勿論觀光團や運賃や保險

料や海關稅や在外人の送金等として、外國の金を儲けて取り入れるのなら、夫れは多々益々辨ずるのであつて國民一致雙手を擧げて之を歡迎しなればならぬ事。

◎吾人は經濟帝國主義を主張するに非ざるも、結局吾々日本國民が今の世界的環境に於て、優勝劣敗を餘儀無くされて居る以上、我等は國民全體の幸福の爲に勤勉努力して、成るべく國內には物資の自給自足を圖り、成るべく外國には物資の輸出を増進しなければならぬ。夫れには極力生産費を減少し、又た品質を改良し無ければならぬのであつて、國民として外に對し最も極力一致し無ければならぬ重大事は則ち此處にあるのだ。保護關稅の引上げや米國其他外國に於ける輸入關稅の引下げや海外移民地の折衝等に就ては、政府に於て極力善處しなければならぬ事。

◎外國との經濟戰爭に於て優者なればなる程日本は眞に富むのであるが、其儲けたる國の富を分配するには第一に失職者無からしめるべく生産事業の安排が合理的に善く行はれねばならぬ。第二には失職者が無くなると同時に、水準線以下の國民即ちプロ階級を向上せしむべく、總ての事業が、勞資共同若くは勞資共榮的に、安排經營されねばならないと云ふ順序になつて來るのであるが、何れにしても國民一致して不公平特權や、不平等待遇や、偏重分配などの行はれない様な、合理的文化

事業の勃興を促進しなければならぬ事。

◎併し乍ら刻下の最大急務たる洪水失業者の救済問題だけは、我等同胞として純理論などに没頭する餘裕無き焦眉の問題であるから、我等は國民總動員の救済を絶叫すると同時に、政府に向つては速かに生産的大調査事業なり、國立公園事業なり、官有地生産林野事業なり、國營開墾の擴張なり、或は副業獎勵事業などを大々的にして、假令ひ収入は少くとも悲惨なる貧困失業者を救済するに勇敢なれと希望し、又た各地方行政区や自治體に向つても、必要なる土木事業或は開發事業其他に於て、速かに失業者を收容すべく懇篤ならんことを希望すると同時に、之が財源としては多少の内國々債又は地方債等を起す、亦た已むを得ざるべしと信するのであるが、此救済たるや筋骨労働者にのみ偏せずして、無論知識階級にも平等に其惠を及ぼすべく安排されなければならぬ事。

◎最早や今日の我國は何人かの夢見るが如き金輸出再禁止などの時代でも無ければ、値上りや借金政策で浮華虚榮浪費の夢を貪るべき時代でも無いのである。消費も生活も闘争も文化も、總てが新經濟的に立直しされなければならぬ時代と成つたのである。即ち今後に於ける我等の問題は、如何に安い金利を以て、奈何に安い生産費を以て、奈何に生産物が安價に提供せられるかにあるのである。

つて、我等は過去十数年間の怠惰惰氣より、斷然たる決意の下に、日常の覺悟を一新しなければならぬ時代に遭遇して居るのである。畏れ多くも戊申詔書に於て勅語あらせられて居る所の『上下心を一にし、忠實業に服し、勤儉産を治め、惟れ信惟れ義、醇厚俗を成し、華を去り實に就き、荒怠相誡め、自強息まざるべし云々』の御趣旨は正に茲に再三拜誦せざるべからざる事。

◎尙人間の慾望は無限のものであるから、將來體力・知識・人格の必要上、是非共中央都市に活躍しなければならぬ様な運命に在る人達ならいざ知らず、既に或る程度まで功成り名遂げたとか、富も収入も亦た食ふに足る丈の資格ある人達に對しては、彼等が徒らに汚醜の魅惑のみなる大都會の塵埃や騒音の巷より速かに蟬脱して、地方開發の爲農村生活に入らんことを勧めたいのである。そして本農業は勿論地方の凡ゆる資源開發、主として輸出向農作品や粗製品や工業品の生産獎勵に向つて猛然突進して欲しいのである。郷等にして懇ろに地方の尖端を切り、克くカンフル注射を農村弟妹の勤勉力に施すならば、我農村の振興は固より、農は國の本として國家の進展上誠に都合宜しかるべき事。徒らに都會熱陶酔の青年子女の還元にも大に都合宜しかるべき事。

大勢を奈何せん

はれ、減俸や減給などの内容的平準作用亦た何等の爭議なしに、支配階級以下國家總動員の適當に速かに行はるゝに至るならば、失業者の救済も不良思想の緩和にも却つて都合良かるべく、而して眞の財界の安定や購買力の相當なる復活も之と前後して早晚必ず具現されなければならぬのであつて、總ての財界整理も社會的改善も、悉く是れ崇高なる大和民族の犠牲心の賜、冷然釋然として敢て驚かず敢て悖らず、秩序整然和氣霽然たる裡に國民一致之を完了せしめたき事。

併し乍ら財界の表裏は頗る複雑多難である。塵界萬事も風のまに／＼刻々變轉しつゝある。各般の制度改善も平準作用も其轉換たるや多種多端であつて、識者諸君と共に講究されねばならない幾多の問題をば時々刻々に提供するのである。天涯窮り無きは無限の社會相なるが故に、茲に本書を擱筆せんとするに方りまして、時の政府に對し予の一言しなればならぬのは外でも無い。夫れは民政黨内閣に對してでも、政友會内閣に對してでも同じであるが、要するに政府は何も偉い知名の人許りを招待して、毎度の如く御馳走をしたり御高話拜聴など、云ふ事許り爲さなくとも、心機一轉偶には顔觸を引下げて、或は上層下層の經濟事情に精通する所の中流當業者とか、或は下層階級の經濟事情や思想傾向に熟通する所の前垂商人なり印半纏人なりを一堂に集めて、番茶式座談會でも開いては何様であ

らうかと云ふ事である。是れぞ國民困苦の實情や、不景氣の真相や、減稅要求の事情やを知るのに意外な良師となりはすまいか。予等芻蕘の言匹夫の辭固より探るに足らざるべしと雖も、我國難の前途や尙重大なるものゝ存するありて、輕舉處斷すべからざる幾多の懸案が引續き今後の推移に係るものあるを想ふが故に、又た以て衆知を集めて一粒萬倍の資と成すの機もあらん歟と云爾のである。

大悟なるかな

桐一葉落ちて天下の秋を知り、秋深ふして冬眠の將に到らんとするを想ふ。吾人豈に冬扇夏爐の過ちを再三すべけんやである。詮する所世界的の不景氣と言ふも、殺人的大受難と言ふも、皆是れ我等國民の自から爲したる因縁づくであり罪の産物であるから、驟然大悟して少くも過去幾十年間に於ける、誤れる群衆心理たりし獸人の罪を心の底まで悔ひ改める迄は、我等の罪の記録は決して清算されないであらう。即ち極端なる唯物主義の錯覺や、依然たる官僚主義政治等より起れる、個人主義的享樂生活思想や資本萬能的産業經濟思想や、軍國主義的國家經濟思想等の誤れる過去の群衆心理の爲に

遂に世界大戦争ともなり大好景氣ともなり、波瀾怒濤の大反動來ともなり、國を擧げて阿鼻叫喚の蒼も化せしめたのであるから、我等日本國民は他の世界國民と共に眞に悔ひ恐れて、其罪の許しを神の御前に祈らなければならぬのである。そして總ての思想を改善して享樂的より勤勉的、放漫的より堅實的、虛榮的より忍苦的、争鬭的より平和的へと、神の更生の御恵に浴せねばならぬのである。其處で我等國民の將來一貫して心掛けねばならぬ事は、第一に官民一致して贅澤を戒めねばならぬ。第二に遊蕩氣分を全然禁じなければならぬ。第三に禁慾主義を勵行せねばならぬ。而して是等は無論平素執るべき永久的方針であるのだが、我等は未だ茲に惡化せる財界や世相の立直しと云ふ事に就て、差當り焦眉の急を要する幾多のものを今後數年間の任務として、官民共同の責任地位に立つものなる事を覺悟しなければならぬ。夫れには予輩固より仙石滿鐵總裁の所謂名醫にはあらざるも、今の我財界を診察して前にも論じたが如く、官民共に虛榮贅澤より昂進して墮落破産の境遇に瀕せるものなる事を首肯するのである。即ち多年痼疾の借金病が嵩んで榮養頗る不足なる、豫後の不良にも拘はらず米歐の猛烈なる購買力減退風は吹捲り、其上自己亦金解禁の下痲症を併發し、爲に身體全部は悉く衰弱して氣息奄々とも謂つべき症狀にあるのだから、遽かに半年や一年の短期間を以て之を

健全の體軀たらしめんとするのは、到底無理な註文であるけれども、對症療法の施行は一日も之を等閑に附すべきものにあらずと思ふ、左に之を縷述せん。

先づ物價の下落を徹底する爲には、國民舉つて資産價格減と収入減とを我慢すると同時に、平均一人當り十幾倍の財力と収入とを有する米國式贅澤化を抑制しなければならぬが、贅澤の最も大なる一例としては我國力不相應の戦争準備費であつて、米國では年所得高のパーセント位しか軍事費を使用しないのに、日本は三パーセントを軍事費に使用して居るとさへ謂はれる程容易ならざる惱みの王座にあるが如き、之に次では近年に於ける自動車の濫用の如き、或はグロテスクなキツスやダンスの悪風の如き、何れも亡國病の輸入として抑制されるべきものではあるまいか。又た此際國民の膏血に由て生きる所の政府の官吏公吏を始め民間俸給生活者や一般使用人等の減給が、適當の程度まで實現され無ければならぬと同時に、一般國民生活の支出に屬する總ての公費や料金や物價などが、軒並揃うて今後徹底的に値下げされなければならぬ事は、繰返すまでも無く自然の成行であらう。又た何業を問はず暴利を貪りて消費經濟を脅威し、若くは不當の搾取を爲すが如き不人道に對しては、官憲の力を藉りても之を抑制せねばならぬ。人間も安くせよ。品物も安くせよ。是が立直しの根本である。

次に我等は國民の相互扶助を徹底せしめられる爲に、時の内閣の體面とか政黨の懸引とか云ふものに拘泥無く、全く國民一般公平に均霑される様な大社會政策に恵まれなければならぬが、夫れこそ兎角御定りの一夜作りの融資や救済の案で無く、充分鍊つて鍊り上げられた法三章を欲しいものである。又た政府でも民間でも兎角合理化に不徹底なのは、暴行者を生ずるのを恐れるが爲許で無く、其實は失業者を煽動する背後の人々や失業者を喰ひ物にする所の仲介者などを、恐怖する事蛇蝎よりも甚だしい爲の様であるが、此問題に對しては予輩特に滿腔の至情を以て其人達に大悟徹底を勸告せんとすると同時に、屢々本書に記したる如き減賃銀整理法なり、或は偏重偏輕平均法などに據りて寧ろ失業者を生ぜしめざらしめん事を望むものである。又た此相互扶助を徹底せしむる爲には、政府筋の不緊急事業で無く、成るべく民間に於ける有利なる産業界の整理若くは振興に依りて、正々堂々合理的に世の不幸なる家庭や氣の毒なる人達が、遺漏無く除外無く救はれなければならぬのは無論であるが、例へば農務省若くは商工省に副業局と云ふ様なものを設けて、全國に從來貿易品の外新舊輸出向各種副業の普及と奨励とを徹底せしめ、且つ其統制の法宜しきを得たならば、我の特長たる家内勞作的手工的有望な生産物を以て、大に疲弊せる農林漁村民や中小商工業者を始め、生活難に悩みつゝある

る勤勞階級の家庭に向つても、或は意外なる緊張と幸福とを一般民生に與へる事が出来、一は以て現在の儘にては容易に恵まれさうも無き多數の貧困民を蘇生せしむべくと同時に、一は以て國難の境に在る所の我等同胞の國力をも着々充實せしめ、多年ならずして國家の繁榮を齎らせしめる事が出来はすまいか。爲政者は果して之を奈何と思惟するであらうか。又た今後の國民個々の合理的整理により餘裕を生じたる資金は、必要なる生産事業資金に供せられて、成るべく下層の國民生活を高めしむべく按排される様に爲し、而して今後新に生産事業を興すに際しては、假令一株にても従業員全部に株式を所有せしめる等、總ての社會制度にプロレタリア階級の善良なる進出を先取權的に認識せしむる様にしたものである。下層階級より向上せしむる爲に。

其他種々の方策もあらう。然れども予輩は最早や餘り多くを重複繰返さざるべきが、本篇陳る所の二十有五萬言之を更に約言せんか「塵界萬事大悟なるかな」の十字に盡さるのであつて、眞に克く國民一致此意氣の下に凡てを忍耐抑制し努力精進すべく覺醒するならば、不景氣何かあらん貧富何か有らん苦樂何か有らん盛衰何か有らん伸縮何か有らんやである。我等は只だ操るべき節を執つて進み行くべき道を執つて進みさへすれば良いのである。一念發揮邪念を一掃して新生活と新經濟に更生し、

相互愛相互扶助の奉仕に向つて邁進すれば良いのである。之を要するに人間界は縦から観ると自然淘汰だが、横から観ると平均作用、中間から観ると循環作用が不斷に永久に行はれつゝあるのだ。抽象的にも演繹的にも世態人事百般の有象無象にして、自然平均か自然循環の理数を免れべきものは殆んど無いのであつて、是等自然作用の行はるゝ事蹟の大なれば大なる程、我等人間界の改善も進歩も將た幸福も増大されるのであると想へば、天地間の眞理は實に絶大且つ不可抗的であると謂はなければならぬ。此眞理を是れ知らずして徒らに天を恨み世を嘲けり、或は夢中に財界を悲觀したり、或は盲目的に文化に眩惑したり、或は薄志的に人生を煩悶したりするのは、我等インテリの頗る恥とする所である。我等の生活は決して蜂蟻の生活にあらず、我等の使命は醉生的のものでは無いのである。少くとも我等にして希望だにあらば百年の人生をも變じて二百年の幸福なる生命と爲し得る事も強ち不可能事では無いであらう。況ん哉其他をや。吾人が結局塵界の大悟を絶叫する所以のもの豈に大に意味無からんやである。

塵界我觀終

昭和五年九月二十日印刷

「塵界我觀」奥付

昭和五年九月二十日發行

定價金壹圓五拾錢

著者 宇 宙 道 士

發行者 佐 治 均

印刷所 共同印刷株式會社

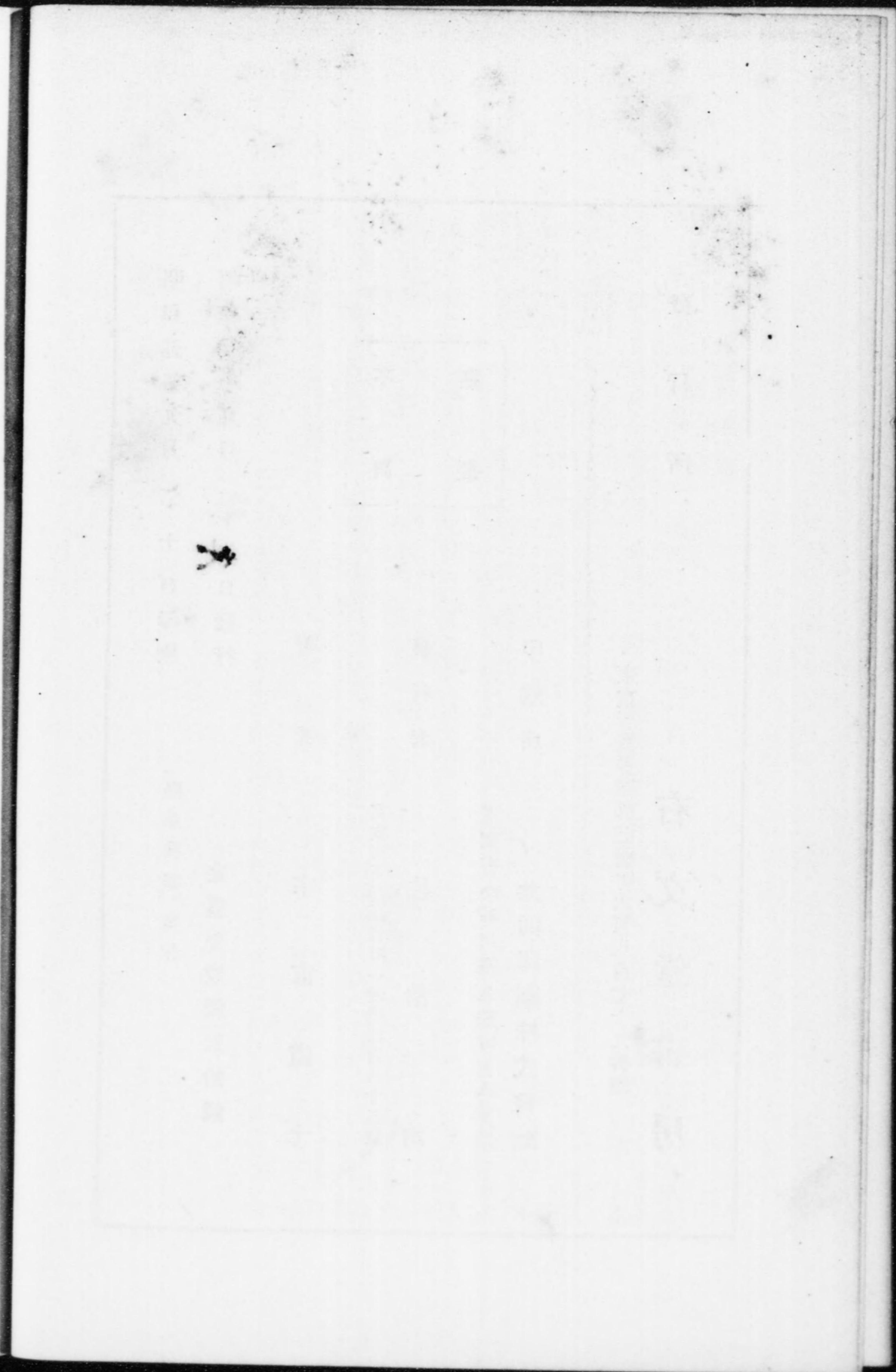
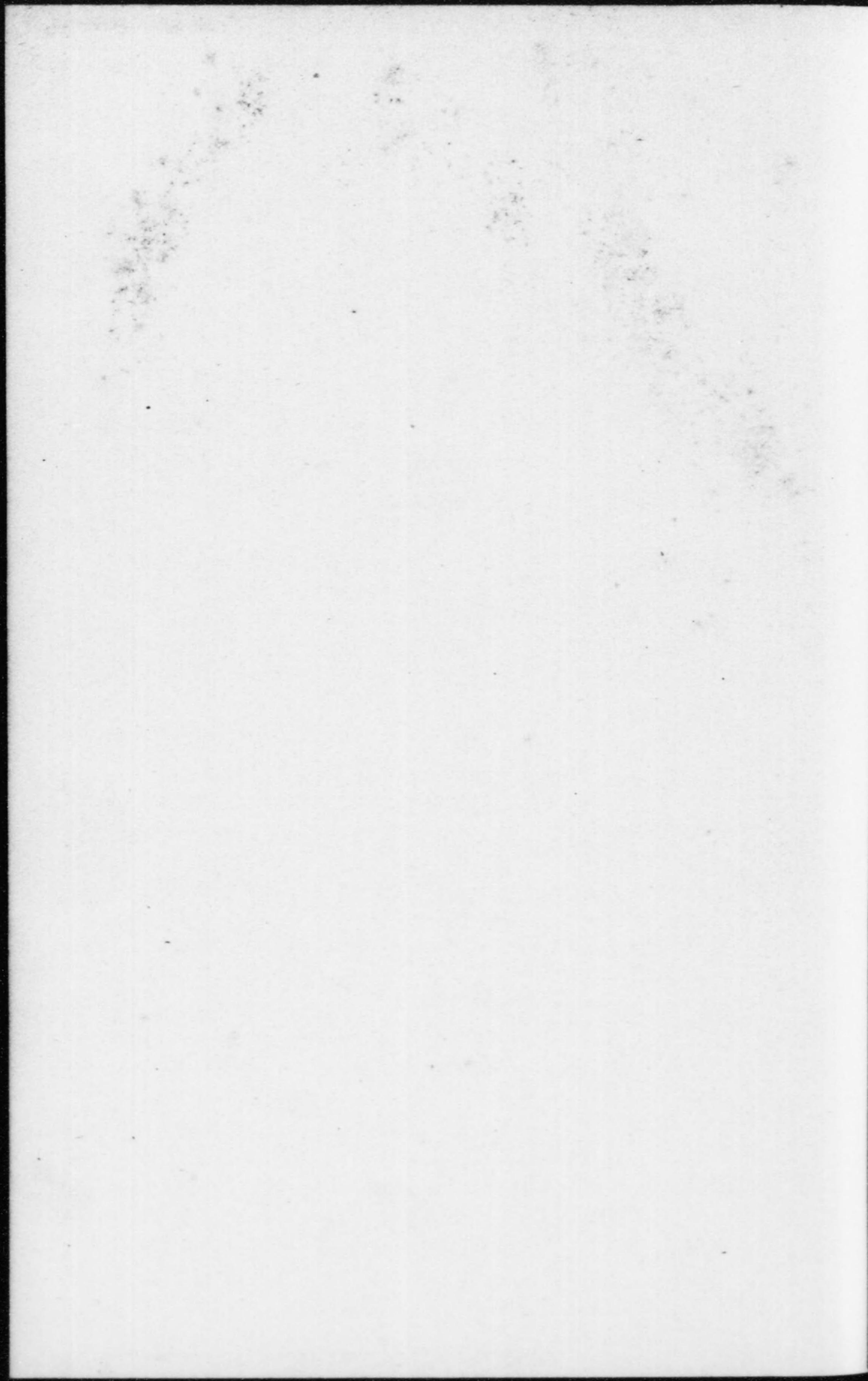
東京市小石川區久堅町百八番地

東京市下谷區竹町一番地西百八十五號



東京府豊多摩郡淀橋町角筈八百七十九番地

發行所 右 文 堂 書 房



609
76

